

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0792600025		
法人名	株式会社ジェイバック		
事業所名	グループホームもも太郎さん坂下		
所在地	福島県河沼郡会津坂下町大字見明字古屋敷771-1		
自己評価作成日	平成28年2月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年3月16日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様の事を常に考え各職員アイデアを出し合い業務を行っています。積極的に意見を出し合い各利用者様に合った支援を行っています。御家族様にも御利用者様にも喜んで頂く支援を目指しています。  
各職員、介護技術のスキルアップを目指し個人別に公休を利用して研修に参加し、勉強をしています。今年より坂下厚生病院の薬剤師を講師に招き薬の勉強会を、毎月1度行なっています。この勉強会にて地域の繋がりを深めていきたいと考えています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1. 自治会に加入し、クリーン作戦や各種会合に参加したり、事業所行事に地域住民を招き交流を図っている。また、小中高生の体験ボランティアを受け入れている。
2. 事業所独自の「入居者権利憲章」と接遇スローガンを設け、職員に内容の周知が行われている。利用者一人ひとりの思いやプライドを大切にしながら言葉かけや態度に配慮を行うなど利用者を尊重するケアに努めている。
3. 感染症や食中毒、薬の扱い方等、定期的に研修会を開催し、職員の資質の向上を図りながら、事故防止とサービスの向上に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	接遇スローガンとし、各職員理念について自己評価をし、管理者評価を含め個別にて面談を行いました。理念について職員が理解し実践に繋げて頂いていると確信してま	法人と事業所の理念を事業所内に掲示をしている。職員は、理念に基づいた「接遇スローガン」16項目を、4半期毎に自己評価を行い、管理者と面談を行い評価をし実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加させて頂き、地区の集まりに積極的に参加しています。運営推進会議で貴重な意見を頂いています。施設の行事にも参加して頂いています。今後は施設の薬の勉強会に参加して頂き施設の中を知って頂きたいと思ひます。	自治会に加入し、地元の行事(清掃活動や会合、文化祭等)に参加したり、事業所主催の夏祭りや芋煮会等を通して地域に根差した運営に取り組んでいる。ボランティアの受入れ等も積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて情報交換を行っていません。認知症の理解や支援方法を地域の人々に活かしてははいないです。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	施設の運営状況を説明し、御家族様、包括の方、役場の方、区長様、民生委員の方と課題を話し合い様々のアドバイスを頂き、サービスの向上に努めています。	運営推進会議は定期的に開催し、利用者状況や活動状況等を報告し、委員から率直な意見をもらい、サービスの向上に努めている。課題や防災に対する取り組みについても、話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方、役場職員の方に運営状況を報告し、協力をして頂く様に願ひしています。	町担当者とは、利用者状況や運営状況等の報告時や、運営推進会議の中で情報交換等を行っている。地域包括支援センターとの意見交換を通して、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠や身体拘束はしていません。身体拘束のマニュアルもあり、各職員がいつでも回覧できる場所にあります。職員一同身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、身体拘束の具体的な行為と弊害について研修会で話し合われ、理解している。玄関の施錠は夜間のみしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルもあり、各自勉強に取り組んでいます。施設内での、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後継人制度についての資料を回覧し、職員に周知しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は介護支援専門員、施設管理者2名にてご利用者様、御家族様に納得して頂ける様に分かり易く説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会に出席して頂き、意見や、要望をお聞きし職員に議事録にて回覧しています。苦情が無いのが現状でもあります。	利用者には日常生活の中で意向や要望を把握し、家族には運営推進会議や家族会、面会時等に意見や要望を聞き、それらを運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の職員会議にて職員の意見や提案をして頂き、改善出来る様にしています。週2回のカンファレンスを開催し話し合いの場を多く設けています。	管理者は毎月の職場会議やカンファレンス時に、職員の意見や要望を聞いている。また、毎月業務改善シートを用い、職員の提案や要望等を把握して、それらを運営に反映させている。職員の動向を見ながら随時声かけを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課の実施や職員と個人面談を行い各職員が働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修につきましては、行う機会が少なくなりました。外部研修では薬の勉強会を含め、今までより多く出来ました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会、社内管理者会議、教育委員会に参加し交流を図れる様、取り組みを行っています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員と各居室担当にてモニタリング、アセスメントを実施し御本人様の意見や要望を確認し、職員間にて情報を共有して御利用者さまとの信頼関係を築ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護支援専門員と管理者でこまめ御家族様と連絡を取り合い要望や意見を聞き、御家族様に満足して頂ける様に職員間にて情報を共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用者、御家族様が現在求めている支援を理解しこれから出来る支援を考えながら各職員対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の話を傾聴しながら、創作活動や、レクリエーションを通じて関係を築ける様に努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と連絡を取り合いながら受診時は御家族様に対応して頂き御利用者様と触れ合う時間を設ける様にし、御利用者様を支えて行く関係を築きました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様、知人の面会及び外出支援にて自宅周りに行く支援を行っています。	自宅周辺をドライブしたり、馴染みの商店や美容院の利用等を通して、人や場所との関係が途切れないよう支援している。また、家族の協力を得ながら、一時帰省や買い物等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様に合わせた席順を考え孤立し無 いように御利用者様同士が関わり合う事が 出来る様に支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族様にお会いした時に近況をお聞きし たり、他施設に移られてから各職員面会に 行く程度で、支援までは行っていません。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	3か月に一度のアセスメントの他に日々の 御利用者様の意見や要望を聞き実践出来 る様各職員と話し合い実践に移せる様に取 り組んでいます。	日頃の関わりの中で、一人ひとりの思いや意 向を把握している。把握が困難な場合は、利 用者の表情から汲み取ったり、ケア会議で話 し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	御利用者様の馴染みの環境生活を崩す事 なく、意見を尊重しこれまでのサービス利用 の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	3か月に一度のアセスメント、日々の御利用 者様の状態を申し送り及び記録を活かし、 把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	週2回のカンファレンスを開き今現在、御利 用者様にどの様なサービスが必要なのか、 職員間で話し合いを行いモニタリング、アセ スメント作成に努めています。	利用者や家族の意向等をもとに、課題を解 決するためのカンファレンスを開催し、介護 計画を作成している。また、経過観察記録に より状態の変化に応じた介護計画の見直し を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアケースの他に経過観察記録を使用し職 員間で情報を共有し実践や介護計画の見 直しに活かす様心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご希望があれば柔軟に対応致します。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御家族様、地域の方、運営推進委員、ボランティアの方の協力を頂きながら、御利用者様に楽しんで頂く様支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族会にてご家族様に受診対応のお願いをし、坂下厚生病院との関係を深め、適切な医療を受けられる様支援しています。	入居時に利用者と家族に説明し、協力医療機関での受診を了解していただいている。通院は、家族が同行し結果を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の有資格者が2名おり、いつでも相談できる環境が出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に管理者が面会をし病院関係者から情報収集し、退院に向けての話し合いが出来ています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診、訪問看護の体制が難しく体制作りができていません。特別養護老人ホームの手続きをする御家族様がいらっしゃいます。	医療連携体制が整っていない為、重度化対応指針が作成されていない。	利用者、家族の意向を汲み取りながら、事業所が対応できる指針を作成し、体制を整えることが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	喜多方のグループホームと合同で救命救急の講習会を年1回開催しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を12月より毎月行っており、1月に消防署立ち合いの元通報訓練、消火訓練を行いました。3月に地域の方にも参加して頂く様に運営推進会議で話をしています。	年2回、消防署立ち合いの下、総合火災訓練を行っている。非常用備蓄品は、水、カップめん、乾パン、毛布、乾電池等が、三日分を目安に保管されており、半年に一度の点検を行っている。地域との体制を築き、火災ばかりでなく風水害や土砂災害などあらゆる災害を想定した訓練が望まれる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇スローガンの内容を理解し各職員が意識を持ち御利用者様に声掛けを行っています。	利用者一人ひとりの思いやプライドを大切に、プライバシーを守るケアに努めている。職員の日常の言葉掛けや態度で利用者の人格、尊厳を守るよう管理者、職員の間で周知し合っている。ケース記録等個人情報の管理を行い、外部に漏れないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様の希望や自己決定出来る様に気軽に職員に伝えられる様に信頼関係を築ける様に取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各御利用者様の希望を尊重しながら支援し、各御利用者様のペースに合わせ支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1度のペースで理容室の方に来所して頂き髪の毛のカットを行っています。その他御家族様が美容室に連れて行く等の支援も行っていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	盛り付け、皮むきの作業を行って頂いたり、味見等を行って頂いています。女性職員が季節に合わせた献立を考えて頂いています。	利用者の嗜好を把握し、旬の食材を取り入れたメニューを作成し皮むきや味見等、職員と一緒にやっている。また外食に出掛けたり行事食を提供するなど食事が楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、栄養バランスを考えながら、提供しています。水分量に関しては、1500CCを目標にし摂取して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、うがいの支援を行っています。義歯の方に関しましては、歯磨きティッシュを使用し口腔内の清潔保持に努めました。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導を行い汚染がない様にトイレにて排泄して頂ける様支援しました。排泄記録を活かしパット軽減に努めました。	排泄チェック表により、一人ひとりの排泄パターンを把握し、羞恥心や不安に配慮した声かけを行うことで、トイレでの自立排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に報告して下剤を処方して頂いています。又牛乳やヨーグルトを摂取して頂き便秘の予防に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴支援をし、御利用者様に添った時間帯に入浴して頂いています。体調不良時は入浴支援は行っていません。清拭を行っています。	体調に応じて、毎日利用者の希望する時間に入浴支援を行っている。職員と楽しい会話を交わし、負担感が軽くなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御利用者様が安心して休息や入眠出来る様に誘導しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援時は2名確認で行っています。薬の勉強会も行っており、徐々にではありますが薬の知識も身につけてきています。各利用者様の薬についても把握出来ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設での生活の中で各御利用者様に役割を持って頂き気分転換を図って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事や外出支援や買い物支援を行っています。又御家族様と一緒に外出する機会も設けています。	事業所行事で季節ごとに花を見に行ったり、名所地に外出している。また、家族の協力を得て外泊や外食、墓参りなど実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様に了解を得て少額の金額を所持される御利用者様や買い物時に御自身で支払うご利用者様もいらっしゃいます。職員は御利用者様が金銭管理出来る様支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様に電話が出来る様に支援しています。携帯電話を使用される御利用者様に関しては使用方法を教える支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに御利用者様が作成したちぎり絵を展示しています。廊下には各利用者様の写真を展示し、各月事にアルバムに貼らせて頂いています。	ホールや廊下に共同作品のちぎり絵や写真が飾られている。温度や湿度は適切に管理され清掃も行き届いている。一人ひとりソファなど好きな場所でゆったりとくつろげるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御利用者様同士話しやすい席順になる様にしています。ソファを使用し、休まれる利用者様もいらっしゃいます。各御利用者様に合わせた環境作りに努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	各御利用者様に応じた居室作りに努めています。趣味に必要な物を部屋に持ち込んで頂いています。職員と作成した作品を居室の中に飾らせて頂いています。	利用者の馴染みのものが持ち込まれ、自宅同様安心して生活できるよう支援している。自分で作られたたくさんの手芸品を飾ったり、植木鉢の花を大切に育てている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーです。手すりや歩行器を使用し自立歩行出来る様になっています。車椅子使用されている御利用者様でも歩行訓練等を行う支援をしています。		